

日本地球電気磁気学会会報(第92号)

1981年10月28日

日本地球電気磁気学会

東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル

(財)日本学会事務センター内

電話 03-815-1903

I. 第70回総会ならびに講演会

第70回総会ならびに講演会は、10月13日～15日の3日間、神戸大学のお世話により神戸大学工学部で開かれた。14日午後には、神戸大学工学部朝山邦輔氏による「磁性超伝導体の研究」及び桜井邦朋会員による「太陽活動の変遷と地球環境」についての特別講演の後、恩藤会員を議長として、下記の次第で総会が開かれた。

- (1) 開会の辞
- (2) 議長指名
- (3) 大会委員長あいさつ(松本治弥大会委員長)
- (4) 運営委員会報告(第II項参照)
- (5) 田中館授与

第87号 林 幹治会員

極光帯プラズマポーズ領域の磁気圏電磁波動の研究

第88号 森岡 昭会員

惑星電波のダイナミックスpekトルの解明

- (6) 田中館賞審査報告
- (7) 委員長あいさつ
- (8) 議事

(1) 規約改正

学会委員長の名称を学会会長と変更することに伴う規約改正案が賛成多数で採択された。また賛助会員に関する規約の一部改正も賛成多数で採択された。新規約は昭和56年10月14日より発効するものとする。改正された規約・内規は会員名簿更新時に印刷配布の予定。

(2) 次期開催地の確認

前総会で提案されたとおり、第71回総会・講演会開催地は国立極地研究所とし、極年100

年の記念行事を併せて実施することが確認された。

(イ) 次々期開催地の提案

本蔵会員より、第72回総会・講演会開催地を秋田大学にお願いしたい旨提案があり、秋田大学を代表して乗富会員より了承する旨の発言があった。なお開催期日は10月1日～7日の間の三日間になる予定である。

(9) 謝辞 大林 辰蔵会員より参加者を代表して、今回の総会及び講演会をお世話下さった神戸大学の方々に謝辞が述べられた。

10 閉会の辞

II 運営委員会報告

(イ) 会員（第118回運営委員会で承認された新入会員、賛助会員は下記の通りである）

新入会員 5名

江部 稔 ※ (電気通信大学航法工学)

木幡 祐一 ※ (")

大村 善治 ※ (京都大学 工学部)

大橋 正良 ※ (京都大学 超高層電波研究センター)

Jack Henry Meek (東京大学 地球物理研究施設)

賛助会員 1名

エコー計測器株式会社

退 会 2名

現会員数 508名

(ロ) 会員名簿

会員名簿の更新を次期会計年度に実施する予定である。

(ハ) 名誉会員への招待状

総会・講演会への招待状を会長名で名誉会員に送ることにした。

(ニ) 学会連合関係

科研費審査委員候補者の推薦を行った。

(ホ) 会 誌

第9号、第10号が印刷中であり第11号も間もなく印刷出来る予定である。現在原稿が受理されてから印刷上りまで、約半年間でできており、おむね順調である。なお、サプリメントについては現在は計画していない。

(一) 現在継続審議中の事項

(a) 非会員の講演資格について

講演会での講演資格は学会々員の権利の一つであり、これを守るために非会員の発表には何等かの制限をつけるべきであるか、あるいは、非会員の講演を聞くことも広い意味で会員の利益に合致することなので特に不都合がない限り現状で良いのではないかという意見が運営委員会の中で議論されている。

(b) 役員選挙方法の改正について

現行の役員選挙では投票率が低いこと、票の分散が大きいので何等かの改正が必要ではないかということが議論されている。

(二) 運営委員会報告に対する質議

(a) 会誌（特にサプリメント）の発行状況が不明確であったので会報に出す等の方法を取って欲しい（国分会員）。

(b) 非会員の講演は、無理がいかない限り許した方が良くはないか（前田会員）。

(c) 選挙方式として候補者を限定する方式はどうか（前田会員）。

等々のコメントが述べられた。

III. 研究助成金・奨励金について東レ科学振興会

上記振興会より「科学技術研究助成」候補者推薦依頼が来ております。メ切期日がせまっておりますので希望される方は直接当学会総務（宇宙研学研究所，平尾・河島・鶴田）までお申し出下さい。

助成の概要

対 象 基礎的な研究に従事する研究者またはグループ

助成金 総額1億円前後，1件1,000万円程度，但しあまりこの額にとらわれる必要はない。

締 切 昭和56年11月15日

IV. 人事公募のおしらせ

宇宙科学研究所より以下の公募要領が発表されましたので転載します。

此度 下記の要領により教官公募を行いますので，広く適任者の推薦，応募を求めます。

1. 公募人員 助教授 2, 助手 1

2.3. 所属部門及び内容

(1) 太陽系プラズマ物理研究系：磁気圏電波科学部門 助教授

飛翔体を用いて，惑星磁気圏及び惑星空間の電場観測を行い，宇宙空間プラズマ物理学の研究

を行う。

同部門には教授大林辰蔵が在任中，又同研究系には他に磁気圏プラズマ物理部門（教授西田篤弘）がある。

(2) 共通基礎研究系：宇宙空間原子物理学部門 助教授

宇宙空間諸現象の基本となる原子・分子の素過程の研究を行う。原子・分子研究者で宇宙科学に寄与する人，又は宇宙科学研究者で原子・分子理論に詳しい人を求める。理論，実験は問わない。

同部門には，教授高柳和夫が在任中。

(3) 宇宙圏研究系：赤外線天体物理学 助手

主として飛翔体を用いた赤外線観測により，天体物理学の研究を行う。同部門には教授奥田治之が，又同部門に関係深い客員助教授として松本敏雄が在任中。

4. 着任時期 決定後なるべく早い時期（昭和56年度内を希望）

5. 必要書類 (1)略歴 (2)研究歴 (3)論文リスト及び主要論文別刷各1部 (4)他薦の場合推薦書，自薦の場合，本人について意見を述べられる人2名（氏名，連絡先）
(5)共通基礎系助教授の場合，研究計画書。

6. 締 切 昭和57年1月14日（必着）

7. 宛 先 宇宙科学研究所 所長 森 大吉郎

〒153 東京都目黒区駒場4-6-1 電話 03-467-1111（代表）

8. 問 合 せ 不明の点，及び資料の請求は下記に願います。

(1)太陽系プラズマ物理研究系 大林 辰蔵 内線320

(2)共通基礎研究系 高柳 和夫 “ 355

(3)宇宙圏研究系 田中 靖郎 “ 308

9. 選 考 選考は宇宙科学研究所運営協議員会議に於て行います。応募者中に適任者がいない場合，決定を保留することがあります。

10. そ の 他 宇宙科学研究所は，東京大学宇宙航空研究所が発展的に改組し，昭和56年4月14日付で，新たに発足した国立大学共同利用機関です。国内に於ける共同研究並びに国際協力に積極的役割を果す人を希望します。

封筒の表に「助教授（又は助手）応募（推薦）書類在中」と明記下さい。

V. 会議開催通知・研究会案内

題 目 「海洋大陸境界域における地球電磁気現象」

会 場 東京大学地震研究所第1会議室

文京区弥生1-1-1

期 日 昭和57年1月28日(木)～30日(土)

講演申し込み先

〒113 文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所 行武 毅

講演申し込み締切 昭和56年11月15日

内 容 海洋から大陸にかけての地下構造の解明が主要テーマ。理論、解析、観測、測定技術等。
日本列島陸上の観測、C A関係の研究を含む。